

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成25年4月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670800269
法人名	医療法人吉祥会
事業所名	グループホーム美楽居
所在地	出水市平和町347 0996-63-8000 (電話)
自己評価作成日	25年 1月 15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が病院、老人保健施設であり、医療面や状態の変化等の時万全のバックアップができ安心と信頼を得ている。また、法人内での研修会や合同で委員会を立ち上げ、サービス向上やリスクマネジメント、身体拘束の理解や感染対策などを学び検討している。
職員も仕事に対して意欲的で大半の者が介護福祉士の資格を学びながら取得している。知識の向上にも意欲的で、施設内研修や、外部の研修など自ら積極的に参加している。職員間のチームワークが良く、報告、連絡、相談の徹底、活発な意見交換を行いながら、管理者に指示されながら動くのではなく、自分で考え時には相談しながら仕事を行うことで、いきいきと働いており、ご家族や面会に来られた方から「職員がいつも楽しそうに働いていますね」「いつ来ても明るくて気持ちがいいですね」との言葉をいただいている。

○出水市の閑静な住宅街にあり、周囲には田畑が広がり自然豊かな場所にある。敷地は広く施設内は開放感が感じられる。ハードおよびソフト面において、ゆとりある生活支援を心がけている。

○病院や老人保健施設が隣接しており、健康管理や災害対策、勉強会など近隣施設と連携しながら行い、理事長である医師に毎日健康状態を報告するなど、利用者や家族の安心に繋がっている。

○職員は看護師や介護福祉士、ケアマネジャーなど有資格者が多く、専門的な知識と技術のもとで生活支援を行っている。職員は、内外の研修に積極的に参加し資格取得などスキルアップ意欲が高く、理事長や管理者は、勤務調整などバックアップ支援を積極的に行っている。管理者は、認知症キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座を地域で行うなど、地域の認知症の方や家族の支援を積極的に行っている。

○開設12年目を迎え、同法人事業所や市町村、各関係機関と連携しながら、地域に根差した施設運営の在り方を日々考え、認知症になっても安心して地域に住み続けられるように体制を整えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念に沿ったサービスを提供するために、毎年年間目標をスタッフ全員で考え作成し、目標の達成度や成果を評価している。運営理念は朝の朝礼時に全員で唱和している、	開設時に同法人共通の理念を作り、地域に根差した施設運営を心がけている。また、毎年、グループホームの目標を決め、理念および各年度の目標を掲示し、ミーティングのときに唱和し意識付け、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店での買い物や文化祭に作品出展、マラソンの応援など交流を図っている	同敷地内にデイケアセンター、介護老人保健施設が隣接し、ホームの窓からデイケアの送迎の様子もよく見え、デイケアを利用している地域の方との交流を日常的に行っている。管理者は、認知症サポーターのキャラバンメイトとして活動し、地域の人に認知症についての理解を深めてもらい支援者として活動してもらえるようにしている。中学校の職場体験学習等を受け入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	市と協力して認知症キャラバンメイトのメンバーとしてサポート養成講座の開催や講師などを務め認知症の理解を周知できるように活動している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価への取り組みや次歳の評価など議題に取り上げ生き苑交換している	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や運営報告を行っている。メンバーには、家族や公民館長等をはじめ、行政等の職員も参加してもらい、地域に根差したホームづくりを心がけ取り組んでいる。家族へは面会に来られた際に参加を呼び掛けている。開設12年目であり、会議の内容がマンネリ化してきているため、会議の運営について改善していきたいと思っている。	運営推進会議参加について書面で案内を送るなど、面会に来られない家族や地域の方にも積極的に参加を呼び掛け、活発な意見の反映を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	疑問点や相談事など担当者と連絡を取っている。また、事故があった場合は必ず報告や助言をもらっている。運営推進会議にも必ず出席をもらっている	介護保険制度改正や関係制度に関する相談や事務手続き、利用者の家族を含めた問題について相談や状況を報告し、情報交換や助言をいただいている。利用者の健康状態についても、報告を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	なぜ玄関御施錠をしないのか、何が身体拘束にあたるのかは全スタッフが学び施錠しないことが当たり前との認識を持っている	身体拘束禁止委員会を中心に研修会等を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日頃から利用者の思いを大切にケアの実践を心がけ、利用者の行動パターンの把握に努め、玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を実現している。利用者が外出しそうな時は、一緒に付き添い見守るなど安全面に配慮している。ベッドからの転倒リスクの高い方には、ベッドを外し布団で対応するなど利用者の状況に応じた対応を柔軟に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の委員を中心に高齢者虐待や身体拘束についての勉強会を毎年行い、全スタッフが絶対に虐待はしないと強い気持ちで日々のケアにあたっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見人制度については勉強会は行っているが、現段階ではまだ全スタッフが完全に理解しているとは言えないと思える		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は十分に時間をとり本人やご家族が理解できるまで質問を受けたり説明を行っているつもりである。また、入居後もいつでも疑問点があったら質問してくださいとの声かけや信頼関係を築けるように心がけている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	第三者委員の選定や市町村の相談窓口の説明を入居時に行い、また事務所前にご意見箱を設置し、スタッフ全員が言葉にならない不満やクレームなど表情から読み取るように普段から心がけている	重要事項説明書に相談窓口を記載している。また、利用者や家族の意見や要望は気づきメモに記載し、管理者及び職員で内容を確認し、組織的に対応を検討している。日頃から家族が意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議やカンファレンス、面接など常に職員との話し合いを持ち一緒に美楽居を作っているつもりである	管理者は、職員や利用者の状況に応じて柔軟に対応できるように、職員が意見を言いやすいような雰囲気を心がけ、悩みがありそうな職員には個別面談を行うなど、職員の意見が反映できるように努力している。また、職員アンケートを行い、意見の反映を心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来るだけ残業しない環境づくりや、忘年会や社員旅行、毎年の昇給や年2回のボーナスなど労働環境には配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>美楽居に入社してから介護福祉士を取得したスタッフが多く現在は60%を超えている。また、毎月の施設内研修や勉強会など開催し、個々のスタッフに応じてトレーニングのスケジュールなど作成している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市と合同で認知症キャラバンメイトの会議を毎月開催し、また、グループホーム協議会のいずみ川薩支部を立ち上げ中心的メンバーとして活動している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネや家族、以前入居していた施設からの情報の収集、可能であれば入居が決まった時点で面接などを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時にゆっくりと現在の状態や希望を伺い入居が決まった時点で必要に応じて何度か面談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報と面談、主治医やケアマネ等の意見も苦慮しながらまず必要としていることを見極めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主役は利用者であることの意識の徹底を行い、一緒に食事することの意味、出来る家事を一緒にすることの意味など常にスタッフ間で確認し合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来やすい雰囲気づくり、運営推進会議のメンバーとして、一緒に運営を考えてもらったり、スタッフとなじみの関係づくりに努力している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所へのドライブや買い物、文化祭の見学など地域の中に出かけていくことを行い、また、いつ面会に行っても感じがいいといわれるように面会に来やすい雰囲気づくりを行っている	利用者を支えてくれていた人間関係を把握し、関係を継続できるよう面会、手紙や電話の支援、馴染みの店への買い物などの支援を行っている。また、希望者には自宅周囲を見にドライブに行く等、馴染みの人や場との関係性の継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方や反発しあう関係性があるので、食堂などの席の配慮や必要に応じて職員が間に入りトラブルを未然に防ぐようにしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移ることがあってもまた美楽居に帰ってきたいとの言葉を多くいただいたり、病院など入院時はお見舞いや時にはご家族が相談にみえることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の気持ちをうかがうことはもちろん、言葉にすることが難しい方も多いため、スタッフ全員で検討している	日頃から利用者のご家族との関係を大切に、何でも気軽に話してもらえるように心がけている。利用者やご家族の声に耳を傾け、気づきメモに記載し、情報の共有や要望等を把握し、出来るだけ利用者やご家族の希望に添えるように努力している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は詳細な情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画作成者が一人でアセスメントするのではなく、全スタッフでアセスメントを行い、主治医の意見や必要に応じて理学療法士の意見等も取り入れ正確な把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時等は必ずカンファレンスを開催し、本人、家族、主治医、スタッフ等が意見交換をしている	利用者ごとに担当制を設け、利用者について把握している。毎月、職員全員でモニタリングを行い、職員全員が利用者の状態について把握できるようにし、情報の共有を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録は毎日記録し、その他必要な記録は行っている。モニタリングも計画作成担当者が毎月行っており、3ヶ月ごとに、カンファレンスを開催し、モニタリングをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や病院の付き添いなど本人に合わせて行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のできること出来ないこと、出来そうなことなど常にスタッフ間で話し合い、支援に生かしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の付添や必要に応じて定期的に主治医との面談など信頼関係や不安の軽減に努めている	本人や家族の意向に沿い、入居前から利用しているかかりつけ医の受診など継続医療を支援している。また、理事長である院長に毎日健康状態を報告している。利用者の急変時に備え、ストレッチャーを常備し、利用者の状況に応じて隣接している病院に搬送できるようにしており、利用者や家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で医療連携の契約病院と連絡を取り、看護師や主治医と連携を密にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は詳細なサマリを病院関係者に提供し、退院後も安心してできるように次の受け入れ先の確保をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に主治医も交えてリスクの説明や終末期に対する考え方を話し合いを行い、必要に応じて何度でも話し合いの機会を持ちながら柔軟に対応できるようにしている	重度化や看取りに対する対応について指針を定め、入居時に家族に説明し同意をもらっている。また、利用者の身体状況に応じて、本人や家族、かかりつけ医と相談し、出来るだけ利用者や家族の希望に添えるように努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や救命法の講習など定期的に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と災害時のマニュアル作成、また来年度から消防士に運営推進会議のメンバーとして加わってもらうようにしている	夜間を想定した避難訓練や消火訓練を年に2回行っているが、自然災害を想定した訓練は行っていない。災害時に必要な飲食物や備品の備蓄は、隣接する介護老人保健施設で共同で備蓄している。非常災害に備え、地域自治会長に災害訓練への参加をお願いしているが、これまで、地域住民の参加はない。	日頃から火災訓練だけでなく自然災害も視野に入れ、地域住民や地域消防団の協力を得ながら訓練することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修には力を入れており、個人の意向を大切にする考えは経営理念にも表記している	玄関に個人情報の保護方針を掲示し、記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについて、ミーティングで話し合いながら個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定や思いを大切にしたいケアを行っていきこうと日々努力研鑽している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に業務や職員の都合は利用者によって変化し柔軟に変えていかなければと話をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	いつも同じ洋服ばかりにならないように、髪が伸びたら本人や家族と相談しカットの付添などいつもおしゃれができるように配慮している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の状態に合わせ食事の時のいただきますの声かけや、片付け調理の下ごしらえなど行ってもらっている	献立は出来るだけ利用者の要望を取り入れている。下ごしらえや味見、下膳を一緒に行い、一人ひとりの意向や体調に応じて盛り付けや量、食事形態など配慮している。職員も一緒に会話をしながら食事をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量の把握やカロリー計算、無理なく水分が取れるような工夫など行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはその方の生活習慣に合わせて行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排せつパターンや、動作など観察しその方にあわせた誘導を行っている	一人ひとりの生活リズムや排泄パターンに合わせて、さりげなく声をかけトイレに誘導している。トイレのスペースは広く、歩行器や車いすを利用している人も安心して排泄移動ができるようにしてる。排泄後は温めたおしりふきを利用するなど、利用者が利用者のペースで気持ちよく排泄が行えるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事や朝食時には牛乳をだし、適度な運動ができるように工夫を行い、排泄の管理をして必要に応じて下剤を使用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その方の希望に応じて入れるようにほぼ毎日入浴は提供している	2ユニットを活かし、利用者の希望に沿っていつでも入浴できるようにしている。体調や希望により入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけのタイミングを図って、気持ちよく入っていたできるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活パターンや体力、年齢など配慮しながら昼寝を勧めたり、寝具の調整をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方が飲まれる薬は全員が把握できるように処方箋の管理と薬の在庫確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品の把握、趣味や現在の之力など個別に把握し支援に生かしている。たとえば手芸の好きな利用者と一緒に今年の文化祭出展作品のパッチワークを作成した。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	たとえば、近くの病院に入院している息子さんの面会に行きたいという要望でスタッフが付き添って週2回程度お見舞いに行っている。	同法人関連施設の協力を得ながら、車いすの方など介護度の重い方も外出できるように支援している。天気の良い日は外気浴やドライブなど戸外に出かけられるように配慮し、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物の時など建て替えたり、家族に持って来ていただいたりその方の状況に合わせて支援している。支払いも同じである</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持っている利用者が現在一人いるが、充電などさりげなく配慮している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>静かな環境や換気、カーテンなどを利用した光の調整などを行っている</p>	<p>敷地が広く木々がきれいに植えられ、眺めのよい園庭である。建物を囲むベランダにはイスが置かれ、天気の良い日はお茶会、花見や日光浴が行われている。施設内も明るく、リビング、食堂等十分なスペースがあり、思い思いにくつろぐことが出来る。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホーム内は広々としており畏友な空間が確保できている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた寝具や小物など相談しながら持参している</p>	<p>各居室に出窓があり、窓からは田園風景が見え、開放感が感じられる。居室スペースは広く、使い慣れた家具や寝具、写真などを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。居室の入り口には、季節やその時期の行事を思わせる手作りの飾りをさりげなくかけている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>段差の解消や手すりの設置、広い廊下などその方の状態に合わせた安全な環境が提供できていると思う。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない